令和６年２月２１日

富山県立富山工業高等学校
校長　篠原俊一郎

令和５年度　学校総合評価

１　今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、学校の特色及び工業高校としての社会的ニーズも考慮して「学校経営計画」を策定し、その中の「学校アクションプラン」において、全日制では４、定時制では２、合計６の重点課題を設定した。各重点課題に対する取り組み状況や評価等はアクションプランに記載したとおりである。

学習指導の充実では、自宅学習についての生徒アンケートの報告について、生徒は毎週行われる実習のレポート作成などの課題に多くの時間を費やしている現状があり、これを学習と思っていないのではないか。アンケートの聞き方を見直した方が良いとの意見があった。生徒指導の充実については、なかなかルールを守らず指導件数が増えているのは残念である。「ちょっとくらい」、「ばれなければいい」は大人の世界でもあることであるが、これを見逃していれば社会で通用する富工生ではなくなる。高校生の段階でしっかりルールを守る指導を継続していただきたいとの意見もあった。進路指導については、第一希望で受験した企業の内定率の高さ、そしてその後就職内定率１００％であることに対して評価いただいた。特別活動に関しては、生徒会と代議員が体育大会や球技大会、文化祭などの計画立案を行い、参加意識を高めていく取り組みに対して、生徒の満足度は高く十分な成果だと評価をえた。定時制の重点課題については、資格取得を活用した学習指導では、資格の合否も重要であるが、丁寧な導きのある指導がすばらしいとの意見をいただいた。生徒指導では、欠席があるからと厳しい指導は行わず、生徒の実情を見極めた指導が良く今後も継続していただきたいとの意見をいただいた。

学校評議員会は２回開催し、重点課題について説明と報告を行った。評議員の方々からは、本校の取り組みについて評価をいただくとともに、数多くの示唆に富んだご助言や力強い励ましの言葉を頂戴した。こうして伺ったご意見を、今後のより良い学校経営に生かしていきたい。

２　次年度へ向けての課題と方策

（１）　今年度の学校評価の結果に基づき、本校の現状と課題について職員全体で謙虚に受け止め、計画の改善と取り組み体制の強化に努めていく。

（２）　達成目標の妥当性を十分に検討し、また具体的な調査方法についても工夫して、重点課題への効果的な取り組みを目指す。

（３）　アクションプランを公開することにより、学校の取り組みに対する地域や保護者の理解を頂き、学校とのより緊密な連携を目指していく。

（４）　本学校評価システムを通して、職員全体が学校の教育活動への共通理解を深め、生徒の人間形成や自己実現に向けた、真に有意義な教育活動に結びつけるように努める。

３　学校アクションプラン

令和５年度　富山工業高校アクションプラン　-１-		
重点項目	学習指導の充実	
重点課題	主体的に学習に取り組む意欲と学力の向上	
現　　状	○ 家庭での学習時間がほとんどない生徒が一定数いる。また考査前においても勉強をほとんどしない生徒もいる。生徒が主体的に学習に取り組み、学力の向上を図る必要がある。 ○ １人１台タブレット端末の配備に伴い、生徒が興味・関心を持ち、主体的に取り組むことができるようＩＣＴ機器の活用を推進していかなければならない。	
達成目標	授業以外の学習時間がほとんどない生徒を例年より減らし、 主体的に学習に取り組む生徒について例年より増加を図る	
	授業以外の学習時間がほとんどない生徒を １学期アンケートから５ポイント減少を目指す	
方　　策	○ 生徒への学習アンケートを実施し、生徒が主体的に学習に取り組む方策を探り実践する。 ○ タブレット端末の効果的な活用法を、学科・教科等で情報を共有し、授業改善につなげる。	
達 成 度	「授業以外の学習時間がほとんどない生徒」の割合が、平日においては増加した。ただし、考査期間中の「学習時間がほとんどない生徒」は、0.4 ポイント減少している。	
具体的な取組状況	○「Forms」を利用して、生徒へ学習に関するアンケートを４月と１２月に実施した。 ○アンケートに回答する生徒数については、４月が 347 名（56%）、１２月が 532 名（56%）の回答を得られたが、データとしての精度を高めることができなかった。 ○保護者へＴｅａｍｓでの連絡に、考査期間を記載し、家庭においても学習時間確保に協力いただいた。 ○考査期間中の「授業以外の学習時間がほとんどない生徒」の割合が４月アンケートより減少はしているが、３年生に対しては増加していた。１学期は進路決定のために勉強に励んでいたが、進路が決まりモチベーションが下がったと思われる。 ○全学年で年３回実施している外部模試のデータを活用する方法を探った。	
評　価	C	学習力アンケートを実施したが、達成度の目標設定値を適切に定めることが出来なかった。ただし、現状を把握することができ、今後の取り組み方のヒントを得ることができた。
学校評議員の意見	あまり良くない結果が出ているのは、生徒が学習アンケートの内容を理解していないのではないか。アンケートでの聞き方を改善したほうが良い。	
今後に向けての課題	例年、休み明けに外部模試を実施しており、その中で学習習慣のアンケートも行っている。そのアンケート利用すれば、生徒全員の回答を得て、集計が可能であることがわかった。そのデータを活用することで、生徒毎の成績と学習力習慣の推移を視覚的にとらえやすいグラフで表すことができる。そのため、学習への取り組みや生活習慣などでつまずいている生徒を把握し、個別での指導が可能となる。また、学年ごとにデータの比較や、他校との比較も可能である。今後、このようなデータの見方や活用方法の勉強会などを実施し、きめこまやかな指導ができるよう努めていきたい。	

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）

令和５年度　富山工業高校アクションプラン　－2－		
重点項目	生徒指導の充実	
重点課題	生徒の主体性を高め規範意識の醸成を行う	
現　　状	○　安全確認不十分だけではなく、予期しない（前輪ブレーキで前のめり 2 件など）形態の事故が発生し、昨年同期と比較し増加している。(22 件 12 末) ○　校内ルールを認識しているにもかかわらず、安易に携帯通信機器を使用し、指導を受ける生徒がいる。(29 件 12 末) ○　校内の雰囲気は落ち着いている感じが強いが、特別指導が増加している。	
達成目標	自転車事故件数、携帯通信機器（教育用 Tab 含め）の使用に関する指導数	
	○ 自転車事故：撲滅するため前年度比減を推進（前年度 22 件） ○ 携帯通信機器使用に関する指導数：前年度比減を推進（前年度 33 件）	
方　　策	○ 生徒に主体的に事故原因やルールについて考えさせ、自分の安全やルールについての意識を高める。 ○ 富山工業高校生であることに誇りを持たせ、「富工ブランド」を育成することにより、所属する責任と規範意識の高揚を図る。 ○ 自転車事故を分析し、原因・対策を周知することで、生徒が危険予知を行う習慣を身に付けさせる。 ○ ICT リテラシーの醸成を図り、携帯通信機器に依存しない生活を確立させる。 ○ 保護者や地域の方と協議する場で現状の問題点を共有し多方面からの指導を実践する。	
達 成 度	○　自転車事故件数：２３件　〔R5.1.15 現在　R4：19 件〕 ○　携帯通信機器に関する指導数：２９件（R5.1.15 現在　R4：33 件）	
具体的な取組状況	○　毎日の登校指導のほか、学期の節目に「生徒指導部通信」により、富山工業高校生としての自覚と責任を高揚させる。 ○　発生した自転車事故の状況を分析した「事故報告書」をクラス掲示し、危険予知能力を養うことと、ST などで事故防止の呼びかけを行った。 ○　アンケートなどで各自の携帯通信機器の使用状況を認識させ、適切に使用できるよう呼びかけを行うとともに、休み時間での巡回指導など直接的な指導も実施した。 ○　携帯通信機器使用ルールについて具体的なプリントを教室掲示し、富山工業高校生としての品格を自覚させるとともに、日常の生活習慣などについても適正化できるよう指導に努めた。 ○　各学年・各学科と連携をとり、生徒に関わる情報を共有し、多面的な生徒指導を行った。	
評　価	C	目標を設定することで生徒の規範意識や学校の校風の向上を図る事に対し、挨拶や服装なども含め、学校の雰囲気は向上しているように感じている。一方で当事者意識に薄く軽微な違反が続き、特別指導も増加していることからこの評価とする。
学校評議員の意見	これからも高校生段階でのルールを守る指導を継続していただきたい。	
今後に向けての課題	富山工業高校生としての自覚と品格を持たせ、一工業人として胸を張って社会に巣立てる生徒を育成するため、日頃の生活習慣や規範意識などをより高めていけるかが課題である。そのための教員間の連携を深め、目標の共通理解を図ることと、生徒への情報伝達の深化が大切だと考える。	

（評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった）

令和５年度　富山工業高校アクションプラン　-３-		
重点項目	進路指導の充実	
重点課題	生徒の希望に応じた進路決定への取り組みを充実させる	
現　　状	○　自らの進路選択に対して主体的に取り組むことが苦手であったり、自己肯定感が希薄な生徒が少なくない。進路指導部としては、生徒が主体的かつ具体的な進路選択をできるような指導を心掛けている。また、早い段階で進路に対する意識づけや具体的な取り組みを促す取り組みとして、各学年で進路ガイダンスを開催し、個人の希望に合わせたきめ細かな指導・援助の充実を図っている。	
達成目標	３学年における就職希望の達成度（一次推薦応募先の合格率）	
	９５％	
方　　策	○ 企業訪問や情報収集を積極的に行い、求人数の確保に努める。 ○ インターンシップや会社説明への参加、複数社への応募前職場見学等を通して、生徒自らが希望する企業についての生きた情報を収集し、その上で応募先を決定させる。 ○ 進路面談室の利用しやすい環境を整え、受験報告書や企業に関する資料閲覧、就職相談等に対応する。 ○ 面接指導や応募書類作成等、全教職員の協力を得て、個に応じたきめ細かい指導を行う。	
達 成 度	９４．４％	
具体的な取組状況	○　管理職、各学科、３学年、進路指導部で分担し、約１００社の企業に電話連絡をして採用計画や卒業生の就業（離職）状況などの把握に努めた。 ○　本校独自の「富工求人検索ネット」による生徒用タブレットでの求人票の閲覧、条件検索がスムーズにできるような環境を整備した。 ○　就職希望者に対して複数社の応募前職場見学を継続して実施している。応募先について、しっかりとした比較検討をした上で決定している。ミスマッチの防止にも繋がっている。 平均見学社数 約２．８社/人 ○　面接試験などの採用試験対策を、学年・学科・管理職との連携により実施した。 ○　二次推薦で応募可能な企業を把握し、生徒の希望に応じてタイムリーな情報を提供した。 ○　３年生を対象に卒業生による進路体験講話を実施した。 ○　製造業・建設業を中心とするインターンシップ（７月上旬に３日間）を実施し、県内企業で２学年生徒が就業体験をした。 ○　全生徒がキャリアパスポートの作成を通して、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして自己評価を行う取り組みを行った。	
評　価	B	一次推薦応募先の合格率は目標をわずかに下回った。不合格となった生徒は１２名（民間企業９名、公務員３名）であった。（就職希望者２１３名）
学校評議員の意見	企業への就職希望者全員が内定をしているのはすばらしい。今後も、継続的な指導をお願いしたい。	
今後に向けての課題	○　早い段階からの現実的な進路の目標設定を促し、個々の生徒に対応したサポートを行う。 ○　産業界（企業）の最新のニーズを踏まえ、求められる人材の育成を目指した指導を行う。 ○　学校生活全体を通して、高校卒業後の将来について主体的に考えることを意識させる。	

（評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった）

令和５年度　富山工業高校アクションプラン　－4－		
重点項目	特別活動の活性化（生徒会活動と学校行事）	
重点課題	生徒会・代議員会を中心とした学校行事の活性化	
現　　状	○　体育大会、富工展などの学校行事に対する生徒の意識は高く、協力的に行事を推進することができる。これまでの行事では生徒会や教師が中心的役割を果たしてきたが、代議員会等を活用して生徒達の意見を積極的に取り入れ、生徒達の自主的な計画・立案・運営・活性化を推進する。	
達成目標	体育大会、富工展において生徒会を中心として、生徒が自主的に学校行事の企画・運営に取り組み、全校生徒が意欲的に参加し、満足できるような活動を目指す。 ※事前事後のアンケート調査における、全校生徒に対する百分率とする。	
	運営・企画に積極的な参加意識度　体育大会７５％　富工展８０％ 学校行事に対する満足度　体育大会８５％　富工展９０％	
方　　策	○　体育大会に向けて代議員会・運営委員会・団集会・係り打ち合わせを複数回開き、学校全体（生徒）の意見を集約し、プログラムや競技規則、配点方法の見直しを実施する。富工展については生徒会が中心となり、代議員を通じてホームルームの意見をまとめ、かつ実行委員、関係学科、部活動などが意欲的に企画・運営に参加し満足できることを目指す。	
達 成 度	運営・企画（体育大会　８２％・富工展　９６％） 満足度（体育大会　９５％・富工展　９７％）	
具体的な取組状況	体育大会……運営委員会、団役員会の開催、係別打合せ、競技説明会等の開催 富工展……実行委員会、代議員会	
評　価	A	満足度や生徒自身の計画立案、計画、参加意識は目標に達した。生徒会と団やクラス代表者との話し合いを密に行うことができ、連携が取れた。
学校評議員の意見	アフターコロナの時代に応じた新しいスタイルの学校行事を目標に、今後も頑張って欲しい。	
今後に向けての課題	○　今年度の行事（体育大会・富工展）は、新型コロナウイルスの感染防止対策を緩和し、以前のような形態に近づけつつ、新しいスタイルとして行事を見直そうと、生徒会で知恵を出し合った。簡素にする部分、工業高校として盛り上げたい部分などを考え、それぞれ科の個性やカラーが出せた大会になったと思うが、学校全体で一体感が出るものが行えたかと考えるとやや物足りなさを感じる。県下随一の大規模校ならではの迫力を実現していきたい。 ○　近年、部活動に対する生徒・保護者・地域の関心も変化しつつあり、求められる部活動のあり方などについて考えていきたい。	

（評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった）

【定時制】

令和５年度　富山工業高等学校アクションプラン　-１-		
重点項目	学習活動	
重点課題	資格取得を活用した学習指導	
現　　状	・定時制の生徒の大半は、卒業後に工業の専門的な知識や技術を活かせる仕事に携わることを希望しているが、専門科目に対して受動的な学習態度になりがちである。そのため資格取得を目標に持たせ、専門的な知識や技術を主体的に学ぶ姿勢の涵養に努めている。 ・定時制の生徒は入学前の学習のつまずきに起因する基礎学力不足が影響し、高校での学習内容を既習事項に関連付けて理解することに困難が生じている。そのため学校設定教科「生活」を開設し、学び直しとして、漢字の読み書き、計算力、英語の語彙力の伸長と、一般教養について学習する機会を設け、工業の専門科目を学ぶ上での下支えをしている。	
達成目標	全国工業高等学校長協会主催の検定や国家資格に１つ以上合格する生徒の割合として ６５％　以上【 R４年度実績：64.3%、R3年度実績：82.4%】	
方　　策	・生徒との面談等を踏まえて学力に応じた受検資格を選定し、それに挑戦することによって得られる学びの大切さを説き、生徒本人が主体的に学習に取り組めるよう励ましながらサポートする。 ・各種検定の内容と各学科の専門科目の内容を関連づけた指導をするなかで、生徒が継続的に目標に向い、達成感が実感できる指導法を模索する。 ・生徒の学習状況から補習計画を立案し、進捗に応じた見直しを図りながら遂行する。 ・学校設定教科「生活」を活用し、基礎学力を土台とした工業の専門的な知識や技術の習得を促進する。	
達 成 度	全工協会主催の資格や国家資格に１つ以上合格した生徒の割合 ◎検定合格者数７名（在籍１０名）・・・・７０％ 【４種目・・・・１名、３種目・・・・１名（R6.1.10現在）】	
具体的な取組状況	○個々の生徒の実情に応じて補習計画を立案し、忍耐強く課題等に取り組ませることにより、チャレンジ精神の高揚と基礎的な知識や技能の定着を図った。	
評　　価	A	資格取得にチャレンジする意欲を発揚させ、それを持続させる効果的なサポートや指導が行えた。
学校評議員の意見	生徒の個性に応じた指導をされ、この国家資格取得結果は素晴らしい成果である。	
今後に向けての課題	○今後も面談等を通じて生徒の資質・能力に応じた資格を精選し、挑戦する意欲を高めるとともに、計画的なサポートや指導を実践する。	

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）

【定時制】

令和５年度　富山工業高等学校アクションプラン　-２-		
重点項目	学校生活	
重点課題	基本的生活習慣の確立	
現　　状	家庭生活や生育歴、学校生活や社会生活状況において様々な問題点を抱えている生徒が多く、生活設計が困難になり、適応性の問題から規則やマナーを遵守する態度が欠けていたりする傾向にある。また、授業遅刻や早退も少なくない。 一方で生徒の中には、きちんとした高校生活を歩もうと努力している姿も見られ、働きながらも年間を通じ無欠席の生徒も存在する。こうした生徒たちには、毎日登校する習慣を大切にし、自分の将来を考えている向きが感じられる。このように目標と向上心を持って、自律性を育む生徒が増えることは、生徒同士の相互作用により出席状況の改善のみならず学校生活の充実へ繋がると考える。	
達成目標	年間の皆勤・精勤生徒の割合　４５％　以上（11人中5人） 【R4年度実績：29%　R3年度実績：53%】 ＊皆勤 ＝ １カ年の欠席が０日　＊精勤 ＝ １カ年の欠席が３日以内 （皆勤・精勤においては欠課時数４で欠席１日として換算する）	
対　　策	・日頃から生徒とのコミュニケーションを積極的にとり、生活実態の把握に努める。 ・授業の遅刻や早退がないよう声かけ指導、校内巡視等を随時行う。 ・将来を見据えた進路指導を行うことで、基本的生活習慣の大切さを自覚させる。 ・健康管理の個別指導を行い、疾病の予防・体調管理を行う。 ・スクールカウンセラーや保護者と緊密な連絡体制をとり、問題等の未然防止に努めるほか、問題等が発生したときは、状況に応じて早期に対策を施す。 ・年度末に表彰する皆勤賞・精勤賞を生徒の励みにさせ、日々の生活支援を行う。	
達 成 度	今年度の皆勤・精勤生徒の割合：36%（実質登校者数11名中4名 12月24日現在）	
具体的な取組状況	○ 生徒の健康や生活状態を確認（登校時、ST などでの声かけ） ○ 保護者との連携（生徒の状況を相互で掌握、速やかに対応） ○ 教育相談（養護教諭と非常勤カウンセラーとの面談による悩みなどの早期発見） ○ 授業出欠状況の確認と生活指導（授業担当者による遅刻・欠席時数の集計）	
評　価	C	目標とする割合45%に対し36%と下回る結果になった。4日欠席した生徒が1名、10日以上欠席した生徒が６名いる。 今年度も日常から生徒とコミュニケーションをとり、日常の様々な出来事など気軽に話ができる雰囲気作りに努め、生徒理解を深めるなど粘り強く指導を重ねた。また自己不安、家庭不安など、心が不安定で消極的になり、欠席、欠課しがちな生徒には、教員間、スクールカウンセラー、家庭と連携を図りながらスピード感ある対応を心がけてきた。今後も、進級や卒業を目指して、意欲的に学校生活を過ごす生徒が増加するよう、粘り強い指導を継続したい。
学校評議員の意見	今年度の評価に捉われず、継続的な指導をお願いしたい。	
今後に向けての課題	○ 生徒個々に応じた生活目標を設定し、日々の生活状況を確認しながら助言する。 ○ 充実感や達成感を与えるよう指導を工夫し、学習活動を行う。 ○ 卒業後の就職を念頭におき、目的意識をもって学校生活を送れるようにする。 ○ 進路決定後の生活習慣の安定化を図る。 ○ 養護教諭およびカウンセラーと連携をとり、生徒のストレスへの対処をスピーディに実施する。 ○ 家庭と連絡を密に取り、家庭環境に留意するとともに、必要に応じて中学校や外部機関と連携を行う。	

（評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった）